

# きずな

## 小牧市民病院の理念

- 1 安全で質の高い急性期医療を行います
- 2 恕の心で患者さんに寄り添う病院を目指します
- 3 医療を通じて、安心して暮らせる地域の実現に貢献します



健診スタート！  
まず、医療面接（問診）からです。



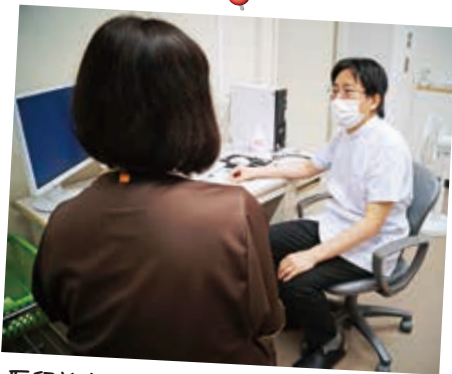
採血です（ベッド採血もできます）



バリウム変わりました！



女性待合室でゆったり。  
乳がんセルフチェックは…。



医師診察で心配なことを相談できます。



特定保健指導。LINEでもできます。



キミと一緒に、育っていききたい。  
**Komaki**

### 特集 健診・がん検診・人間ドックを受診しましょう

- [健康教室]** せん妄・認知症患者さんへの関わり
- [各課だより]** 薬局（病棟業務・医薬品情報室（DI室））
- [職場紹介]** 医療の質・安全管理室
- [意見箱から]** 器具の消毒について

#### お知らせ

- 病院案内図
- 外来案内

## 健診・がん検診・人間ドックを受診しましょう

「ステイホームが続いて体重が増加した」という話をよく聞きます。生活習慣病の予防・早期発見には、一般健診・特定健診が有用です。40歳未満では一般健診が、40歳から74歳では特定健診が、1年に1度行われています。自らの健康レベルを経年的に比べて、振り返ってみましょう。特定健診はメタボ健診とも呼ばれます。心臓病や脳卒中などになりやすい病態を見つけ出します。予備軍といわれてもご心配なく、小牧市民病院健診センターでは、保健師・管理栄養士が、生活習慣を見直すサポートをおこなっています。二人三脚でのフォローアップに力を入れています。



### 人間ドックのすすめ

人間ドックは検査の範囲が広いので、健診では見つけることが難しい病気の早期発見や予防に大きく貢献します。健診は年齢に応じた一般的な検査であり、人間ドックは健診ではわからない病気の早期発見が目的、と覚えておくと良いかもしれません。なお基本的に自費になりますが、最近では費用を補助する職場もあります。



▲腹部超音波



▲肺がん検診CT

健診で行われる検査項目のほかに、眼底検査、肺機能検査、腹部超音波といった検査があります。さらに希望する場合は、オプション検査を追加することが可能です。

動脈硬化、脳MR、肺CT、婦人科(子宮・卵巣)、乳腺、骨密度、前立腺マーカー(PSA)などがあります。自身の性別・年齢・ご家族の既往歴・気になる箇所や日々の生活習慣などに合わせて選択が可能です。

当院健診センターの人間ドックの  
おすすめポイントをご紹介します！

おすすめ①「安心」

日本人間ドック学会の定める人間ドック健診施設機能評価認定を受けています。



おすすめ②「親切」

人間ドック当日の午後に医師面談（結果説明）を受けられます。



NEW!! おすすめ③「丁寧」

健診を受けた3～6ヶ月後の『フォローアップ健診』を始めました。血圧・血糖・脂質・尿酸などの異常値が現れた今が、生活改善のはじめ時です。自分の頑張りを『フォローアップ健診』の再検査で確認できます。



その他にも。。。

- ◎プライバシーに配慮し、各検査室へは番号札によるご案内としています。
- ◎婦人科検診を受けられる方に女性待合室をご用意しています。
- ◎希望者の多い乳がん検診では、新たに午後枠（月・木）を始めました。
- ◎受診者の方のご意見を取り入れ、健診着の見直しを行いました。

小牧市民病院健診センターでは、

- ・ 受診前の受付にてサーモグラフィによる体温測定
- ・ 検査時に使用する検査機器類は毎回のアルコール消毒
- ・ ロッカールームや階段手すり等の定期的なアルコール消毒

など、新型コロナウイルス感染予防に努めていますので、安心して受診してください。

データで見るコロナ禍とがん検診



新型コロナウイルス感染症が流行する中、がん検診を受ける方が減少しました。胃がん検診を例にとると、60代後半で27.2%、70代前半で21.0%、70代後半で33.4%減少し、高齢者ほど受診を控える傾向がみられました。

また、がんの診断件数は、全体で9.2%減少しており、胃がん13.4%、大腸がん10.2%、乳がん8.2%、肺がん6.4%、子宮頸がん4.8%の減少で、特に早期での診断件数の減少が目立ちました。

「主要5大がんでは、全国で4万5千人ほどの診断が遅れているのではないかと専門家はみえています。そして「多くのがんは高齢者ほどリスクが高い。長くがん検診を控えている人もいると思うが、感染対策を取っているので、今年こそ受診してほしい」と報道されています。



がんや生活習慣病はコロナの終息を待ってくれません。受診を控えることは、がんや健康上のリスクの早期発見の機会を逃してしまう可能性があります。改めて健康を見つめなおす今だからこそ、健診・がん検診・人間ドックを受けてみませんか？先送りしていた皆さん、次の機会はぜひ当院で。

せん妄・認知症患者さんに対する当院での取り組みをご紹介します。

## せん妄とは

病気などからだに何らかの負担がかかった時に生じる脳の機能の乱れです。意識がくもってぼんやりしたり、話のつじつまが合わない、朝と昼を間違えたりします。高齢の方やお酒の量が多い方、物忘れのある方がなりやすいです。適切な治療を行えば、約5割の患者さんで症状が改善すると言われていています。

## せん妄・認知症への関わり方について

### ①ストレスがなく安心できる環境調整

騒音や匂いなど刺激の少ない病室の調整をしたり、ケアを行う際は、ゆっくりとした声かけとタッチングで目線を下げ相手を見つめながら話をします。可能な限り言葉がけを行い、なじみのある場所であると感じて頂けるよう関わります。



▲落ち着いた雰囲気のある病室です

### ②ぐっすり睡眠がとれる環境調整

昼間はベッドから離れて、生活をするようにし、日光を取り入れ、夜間は眠れるように配慮します。出来る範囲での運動やレクリエーションを行ったり、必要に応じて医師と相談した上で、睡眠薬などを使用します。



▲色々な道具を使ってレクリエーションを行います



### ③痛みをコントロールする

痛みはせん妄を悪化させます。患者さんの表情や訴えなどを観察しながら移動の介助を行います。医師と相談した上で痛み止めを使用します。

当院では認知症ケアチームが各病棟を訪問し、困っている事の相談を受けたり、適切なケアが行えるように指導を行ったりしています。



▲ケアチーム内で情報共有を行います



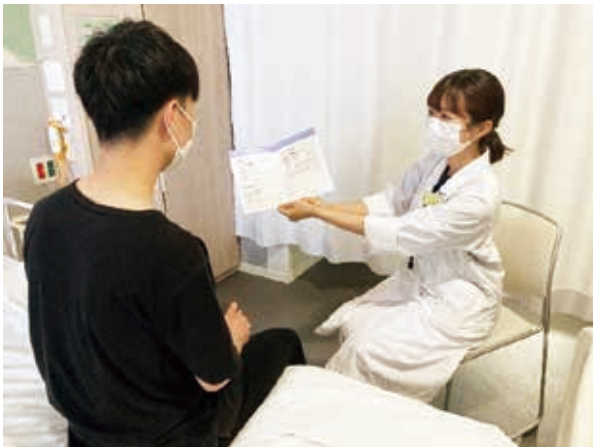
新型コロナウイルス感染症による面会制限が続いています。患者さんにとってご家族との関わりが一番の心の拠り所となります。

## 病棟業務

全病棟に専任薬剤師が常駐し、医師や他の医療スタッフと共に安全で質の高い医療が提供できるように努めています。病棟薬剤師の業務は多岐に渡りますが、主なものを以下にご紹介します。

### 【ベッドサイドでの服薬指導】

入院中の患者さんに薬の服用方法や薬剤の効果などを説明することで、服薬意義を理解してもらい、正しい服薬が行えるようにしています。また、患者さんが入院の際に持ってこられた薬（持参薬）をチェックし、病状や副作用などを観察することにより、効果的で安全な薬物療法が行われるように支援しています。



### 【適正な薬品管理】

向精神薬や麻薬、救急カート薬品の管理や、注射薬の調製の指導など、病棟で適正な薬品の使用や保管が行えるようにしています。

### 【他の医療スタッフとの連携】

医薬品の情報収集を行い、医師や看護師などの他の医療スタッフに情報を提供しています。また、回診や多職種カンファレンスに参加することで患者さんの情報を共有し、より良い薬物療法についての提案を行っています。

## 医薬品情報室 (DI室)

医薬品情報室は薬の情報を専門的に扱う部署であり、日々更新される医薬品情報を収集・整理し、医療スタッフや患者さんに情報提供しています。院内では英語のDrug Informationの頭文字を取って「DI室」と呼ばれています。



### 【DIニュース】

添付文書の改訂情報や採用薬品のトピックス、医薬品適正使用等に関する記事を掲載したDIニュースを院内向けに毎月発行しています。

### 【薬品に関する質疑に対する情報の提供・資料作成】

医師・看護師等の医療スタッフや、患者さんからの医薬品に関する様々な問い合わせに対応しています。例えば、「錠剤を粉砕してよいか」や「薬の飲み合わせ」などの問い合わせを受けたり、「海外から持ち込んだ薬の鑑別」などを受けたりすることもあります。

定型的な問い合わせには迅速に回答できるよう、予め様々な資料を作成しています。

### 【副作用情報】

医薬品による有害事象が発生した場合、厚生労働省に報告し院内の職員に対して情報を提供しています。

私たち病院薬剤師は、薬の専門家として患者さんが安心して治療に取り組めるようにこれからも支援してまいりたいと思っています。



当院では、医療安全について患者さんやご家族様との信頼関係を築くことを大切な課題として捉え、医療安全文化を定着させることにより様々な対策がとられています。

私たち医療の質・安全管理室は、患者さんが安全で質の高い医療を受ける環境を整えることを目標に設置された部署です。

## 【主な活動】

### ○インシデント・アクシデント報告管理

毎週、医療安全に関するインシデント・アクシデントの報告書を収集し、事故につながる可能性のある事例に対しては、当該部署のリスクマネージャーや関連する部署の職員と分析を行い、再発防止策を検討し、重大な医療事故を未然に防ぐ努力をしています。

### ○医療安全管理のための研修

職員の安全意識を向上させるために、全職員を対象に医療安全に関する研修会を年2回以上、及び新規入职者には適時研修を開催しています。研修では、医療安全管理の基本的な考え方、事故防止の具体的な手法等を全職員に周知徹底することで、職員個々及び病院全体の安全意識の向上を目的としています。



▲院内のCVC(中心静脈カテーテル)研修の様子

### ○診療情報の提供（カルテ開示）

当部署では、診療録の管理をしている職員（診療情報管理士）による診療情報の提供（カルテ開示）を行っております。ご希望の方は、当院ホームページにて詳細をご確認ください。



▲事務室内には医師・看護師・技師・薬剤師・事務など多職種の職員と一緒に仕事をしています。

### 【医療事故への対応】

医療事故が報告された場合、まず関係する医療従事者からの聞き取りを実施します。その後、必要に応じて院内検証委員会を立ち上げ、事故の原因究明と再発防止策の検討を行う等、真摯に対応しています。

## 患者さんへのお願い

当院では、患者誤認を防止するためにお名前、生年月日をご自分で言っていただくようお願いしています。また、入院された方には、お名前を記載したリストバンドを装着していただいております。

医療者側だけでなく、患者さんにも医療安全活動に参加・協力いただくことで、さらなる医療事故防止につながります。ご協力をお願いいたします。



当院では、意見箱を設置し、来院者の方からのご意見、ご要望に対してできる限りお応えできるよう努めています。そこで、お寄せいただいたご意見、ご要望の一部を紹介させていただきます。

## 《いただいたご意見》

触れた器具等その都度消毒して欲しい。



## 《ご意見に対するお答え》

健診センター

この度は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

各検査室に設置されている検査機器につきましては、健診者が入れ替わる都度、消毒用シートで清拭しております。職員全員に消毒実施を徹底するよう再度周知しました。

また、番号カードやバインダーにつきましても、使用後に毎回消毒していますので、ご安心ください。

今後も健診者の皆様が快適に人間ドック、健康診断が受診できるよう努めてまいります。

## 小牧市民病院の基本方針



### ◎ 医療の質の向上

職員は自らの専門性を高めるとともに、職種間のコミュニケーションを良好にし、患者さんを中心としたチーム医療を推進することで、安全で質の高い医療を追求します。

### ◎ 患者本位の医療の実践

「恕」の心で患者さんの視点に立った思いやりのある医療を行います。

### ◎ 医療人の育成

将来にわたり地域医療に貢献できる優れた医療人を育成するとともに、働きやすい職場環境づくりに努めます。

### ◎ 地域社会への貢献

地域完結型医療の充実に向けて、地域の医療機関との役割分担・連携をさらに密にしつつ、地域の医療水準の向上につなげることにより、地域社会のニーズに応えられる医療体制を確立します。

### ◎ 経営の健全化

医療情勢の変化に対応するとともに、自院の強みである高次医療を積極的に展開することにより、安定した経営基盤の確立を目指します。

## 臨床研修理念

・「恕の心」を持って、謙虚、感謝の念を忘れずに、プライマリ・ケアの診療が出来る医療人を育成します。

## 臨床研修の基本方針

- (1)医療の本質の「仁」と「尽」を理解し、人格のかん養に努め、患者・家族中心の医療を実践します。
- (2)チーム医療の重要性を理解し、他者からの意見を真摯に受け入れた医療を実践します。
- (3)常に最先端の医学的知識の習得を心掛け、最善の医療の提供に努めます。
- (4)地域医療に参画し、全人的医療を実践します。

# 市民病院案内図



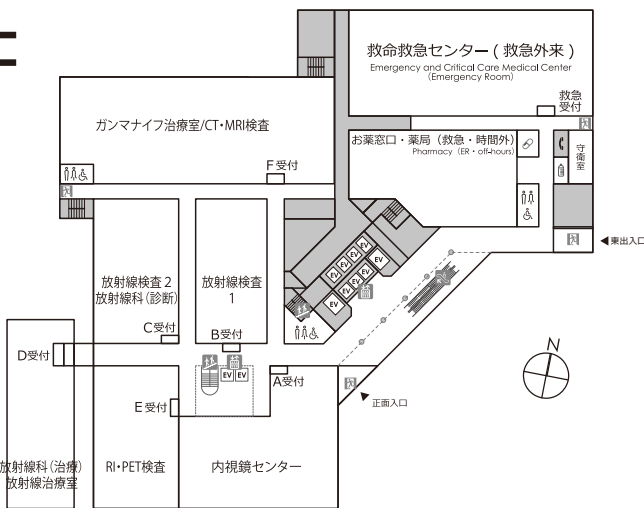
## ■有料駐車場料金

- 1時間まで無料
- 1時間を超え8時間まで100円
- 8時間を超え24時間まで1,000円
- 以降24時間を超えるごとに1,000円加算

- 外来患者用駐車場
- 職員用駐車場

## 外来案内

# 1F



### 〈診療受付時間〉

午前8時30分～午前11時30分

### 〈診療時間〉

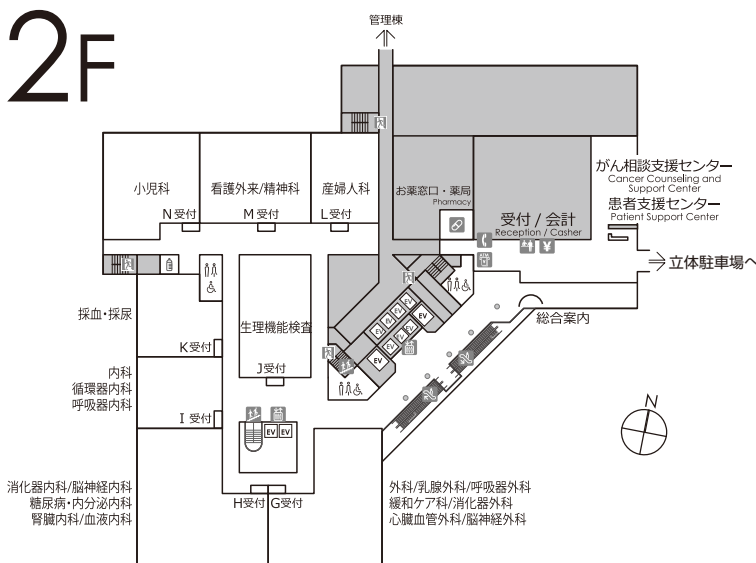
午前9時～午後5時

### 〈休診日〉

土曜・日曜・祝日・年末年始

※急患の方は、救命救急センターで随時診療

# 2F



# 3F

